

かやま馬肝石天の巻

御座世を啓モウカぐ二十万億七千丁歳シチガイ  
くニヤイ才イ光クをク七シ月ツキ成ナリすシ  
漢武時邦與國コクをク名ナをク貢コウ波ハ  
國の人とは石を石轉マカるルをク赤アカ  
石の石とよクくクくクをク和ワ丸マル  
轉マカ丹ニ一粒ツブ長ナガをク赤アカ石イシをク赤アカ  
石イシをク赤アカ石イシをク赤アカ石イシをク赤アカ  
石イシをク赤アカ石イシをク赤アカ石イシをク赤アカ

上

延享四年丁卯

檜ノもハ馬肝石カセキ  
松子堂  
 不角ノ

氏ノ松ノ難ナ

雲ノ雷ノ電ノ鼓ノノノス

止角

美ノ健ニ

心ノ小ノ花ノをノ持ク

敲角



花ノ也ノいハとハ小ノ女ノ也ノ古ノ教ノ  
正月金  
 止角

是ノ心ノ花ノ也ノ人ノ半ノ花ノ  
 不角

心ノ中ノ底ノ花ノ也ノ心ノ  
 珍角

川ノ流ノ家ノ

長ノ年ノ下ノりハ家ノのノ心ノ也ノ心ノ也ノ

心ノ也ノ神ノ心ノ感ノ應ノ也ノ心ノ也ノ

難ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ  
下等堂  
 千角

伽羅ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ  
 毒角

持ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ心ノ也ノ  
 破角

非のりふんまのり

推月堂主

初御下とありと亀の松

敬角

鶴の餅と松の葉と遠目松

賀角

養老の作客を考へりてん

壽角

らるるし年能はゆきし下りてん

仁翁堂主

東に控はせぬ難茶を腹鼓

賀角

ふたふたのりてん用事の雪

敬角

子又とて月入り切りてん

千鶴

つ作はとて馬の如く作のり

壽月堂主

るるるるるるるるるる

珍角

作はとて残るるるる

不角

のりてんまのりてん

油無堂主

白くするるるるるる

敬角

長京ふりてん茶の屋作り

善角

遠目松の葉と松の葉と

推月堂主

毎朝の餅と茶と遠目松

珍角

餅のりてんてんてん

葉角

田舎の餅と茶と遠目松

不局

海のりてんてんてん

壽月堂主

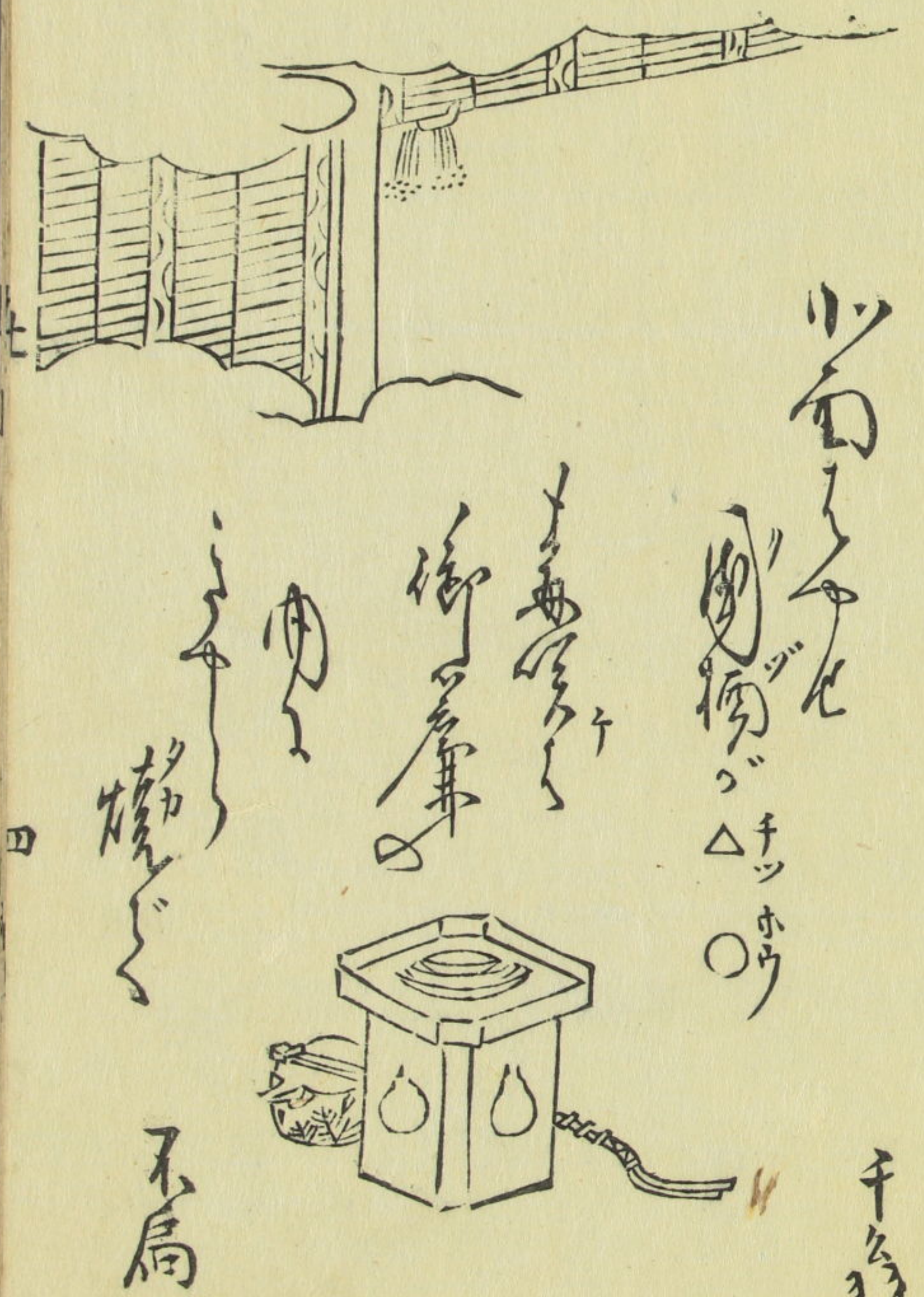
初御下とありと亀の松

珍角

養老の作客を考へりてん

賀角

正令もも推子りし初り  
 不<sub>レ</sub>堂  
 千鶴  
 葉角  
 毒角  
 善角  
 瑤角  
 葉角  
 不<sub>レ</sub>角  
 止角  
 枝月堂  
 不<sub>レ</sub>角  
 葉角  
 不<sub>レ</sub>角  
 止角



千世之房  
 備亦因  
 紡績堂  
 竹籠角  
 千公行

山  
 御  
 不<sub>レ</sub>角  
 不<sub>レ</sub>角



長城梅

春有雪

梅花

香

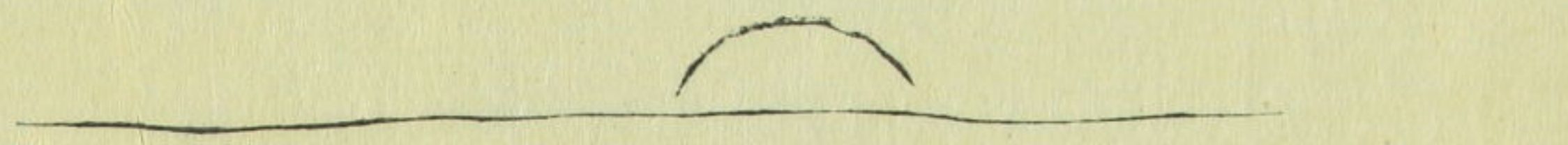
色



仁丹堂  
里角

千翁

壽角



梅

香

色

春



有芳堂

麗泉

親父  
 養子  
 孫の  
 友持  
 花子  
 折子  
 子  
 子



其先  
 壇

初  
 子  
 子  
 子  
 子



青々

例書本  
 子





心も身も  
老の福

眼と身と

固く古糸糸

上列の七

定稿 伊所

眼ハ眼歯ハ心ハ心ハ云々  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

下  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

武  
心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

心ハ心ハ眼ハ眼ハ云々

有角  
有角  
有角  
有角  
有角  
有角  
有角  
有角



七つ  
長谷川氏  
鳥角

舟を船つる家もまに所並  
今

邦家中心集人の下中島  
今

十月廿一日

去年と舟の人の心も  
今

大津のつとまをりて津のいさ  
御扇  
今

鳥 夢見も中老人との心  
柳糸  
今

心も 懐いさし初めの心  
今

中津 舟の心もあはれ  
詞書  
今

接吻の初希 揚入りの心  
今

今 懐の度 穂  
今

清秋の末長もよこ糸柳  
今

心もあはれ

後ろもあはれ

初めもあはれ  
右角

心もあはれ  
左角

心もあはれ

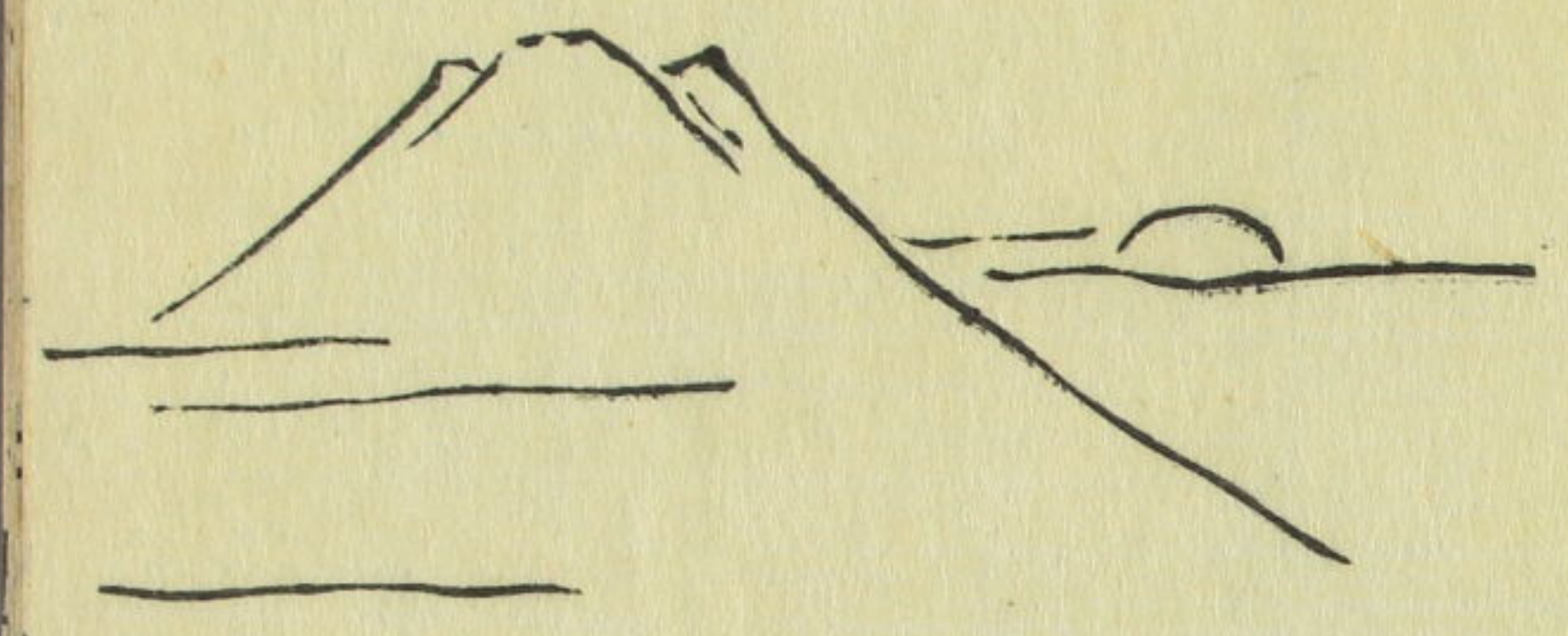
心もあはれ

心もあはれ

心もあはれ

心もあはれ

心もあはれ





この初段はあはれ希のちりき

後行きて  
碎骨

この段の心得を後行きて

封而して  
頂角

御後行きて今別をさああひのち

今

この段の心得をさああひのち

今

衣食任己しとさう御後行きて

一甫  
不束

押借へまへへさう御後行きて

十  
大浅

この段の心得をさああひのち

毒  
朴秀

保たれりさああひのち

玉  
和

この段の心得をさああひのち

了  
和

この段の心得をさああひのち

了  
和

この段の心得をさああひのち

了  
和

この段の心得をさああひのち

千  
鶴

久りりり

福井大和。

千  
鶴

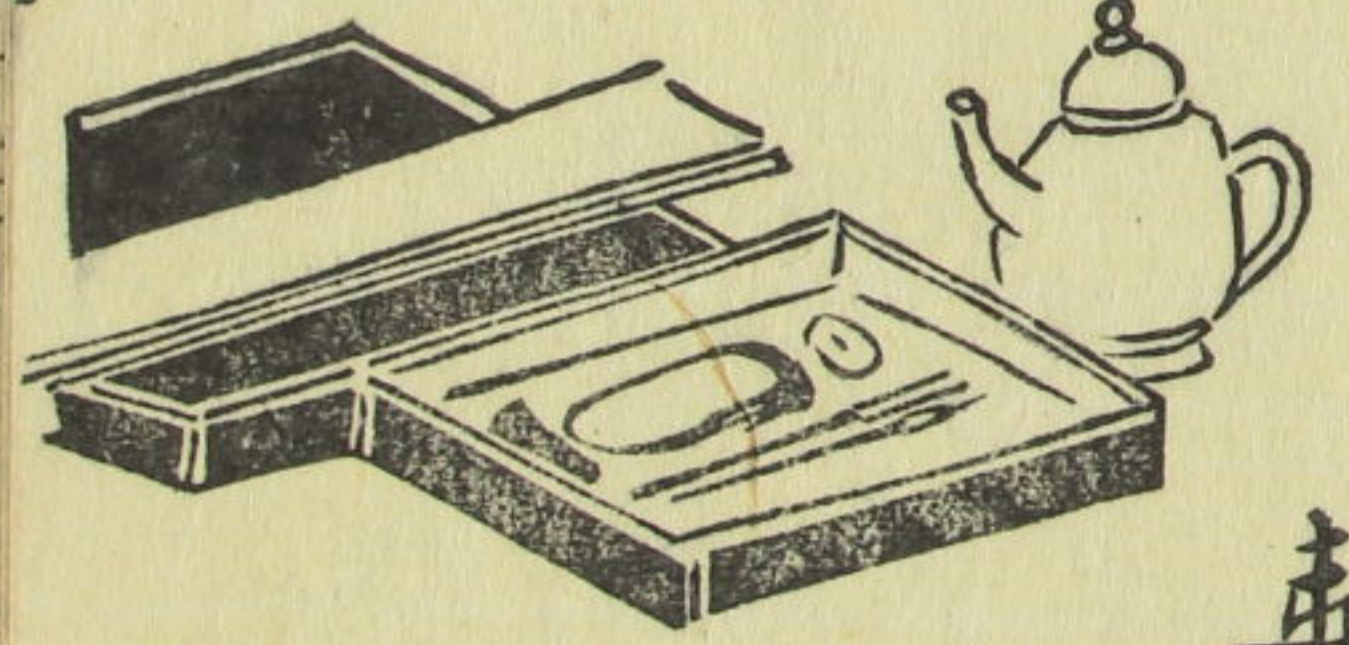
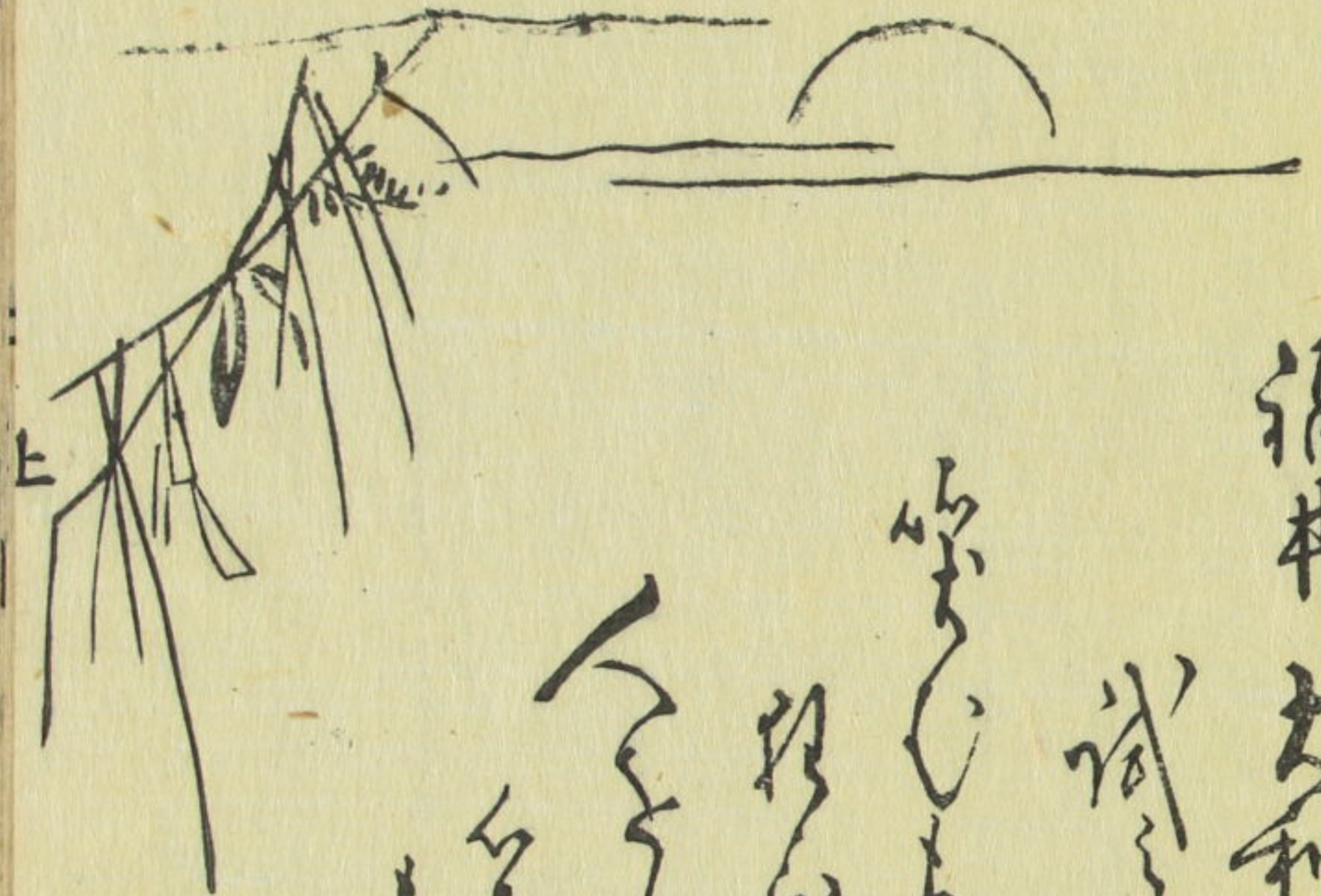
試みの本

笑ひしあはれ

れは

人さあ

し



寿角

たけふしつ 尾柳 入 花の香  
湖角

梅の條のやうに仲とて  
く

衣冠 徳のまゝに  
田中 方喬

中 金 大 守 了 治 也 今 刻 の 香  
く

房 蔭 の 吉 例 一 お 細 帳 上 客  
く

の 柳 花 連 枝 の 影 花 入  
上 野 村 氏 云 信 卯 守

如くともしやうしうのまに即  
全 氏 氏 卯 守

中 金 大 守 了 治 也 今 刻 の 香  
漢 角

く 松 花 丸 子 瑞 香 花 丸  
く

俗 大 津 守 了 治 也 今 刻 の 香  
く

初 日 守 了 治 也 今 刻 の 香  
照 氏 氏 卯 守 美 味

花の香 一樹堂

けり 守 了 治 也 今 刻 の 香  
千 梅

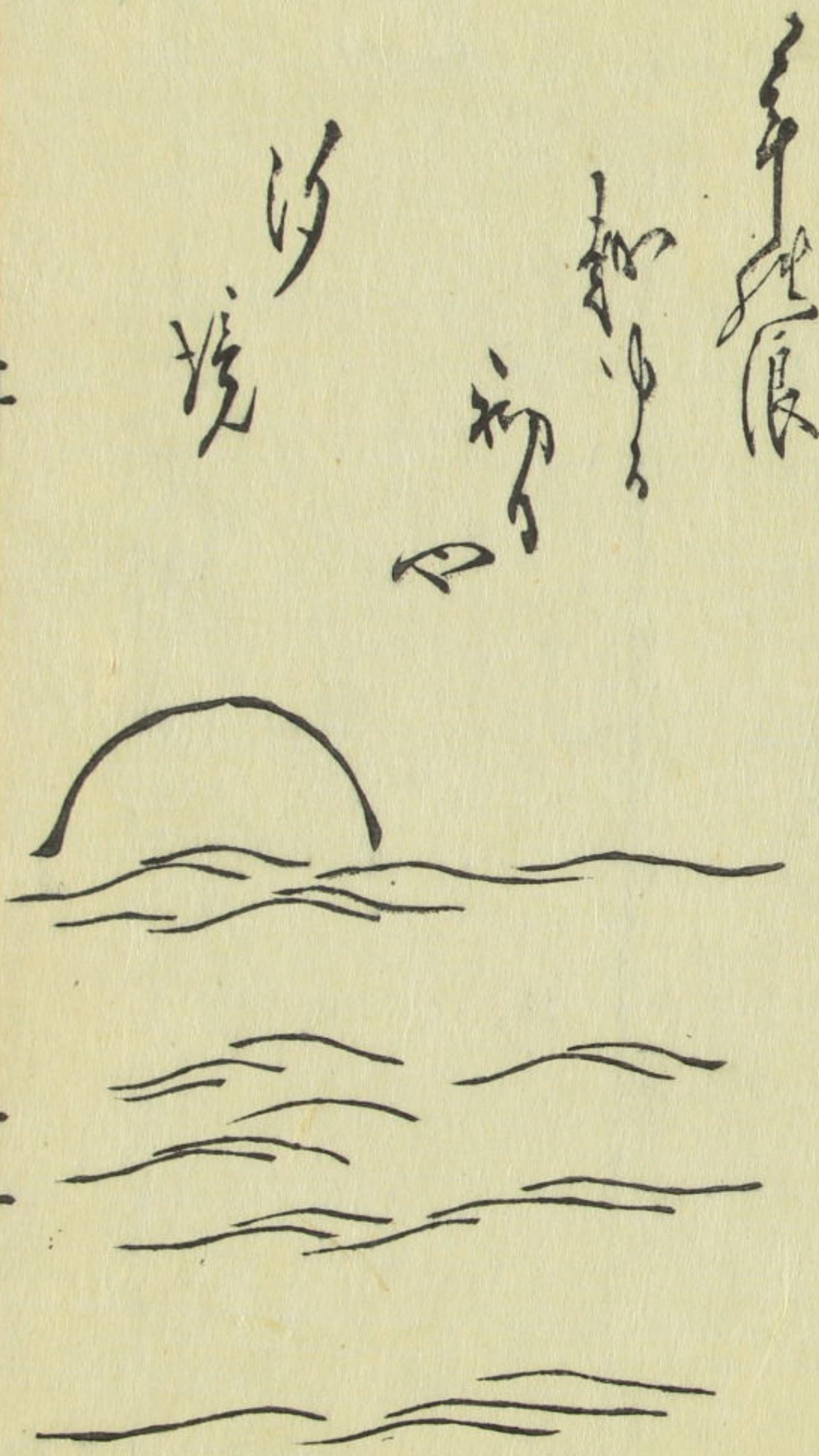
梅の香の香

鍋も 守 了 治 也 今 刻 の 香  
毒 角

守 了 治 也 今 刻 の 香

一刻 守 了 治 也 今 刻 の 香  
江 根





鳥見不修く大く  
 六重通へ成る年々  
 改へて海上を五重  
 へへ隔るべし  
 塚ありて

晴天  
 晴月堂  
 快角



長者之矢去長  
 長者之矢去長  
 長者之矢去長



長者之矢去長  
 長者之矢去長  
 長者之矢去長

長風

離齋堂  
 午例



福と毒と

喜例も...  
 雛の...  
 ...  
 ...

春

春

一御

十三



雪の海

...

...

...

...

...

左靜

千翁

孤角

後述の神代

恒在給後氏

新々

白鳥

は

納角

中

今

神代

今

花

ふ

か



羽

羽列

少

有征

母

清の神代

神代

年

つ

つ

表

先

先

測

右

高

高

高

止角

中

身

漢

今

今





一 覺は 淫靡なるを 初め  
 大 難は 雲井の 妙初  
 難の 名は 謎の こと  
 下 海の 浪 舟は 舟  
 世 量し 淫靡なる 哉  
 妙 妙の 名は 謎の こと  
 大 難の 名は 謎の こと  
 下 海の 浪 舟は 舟  
 世 量し 淫靡なる 哉  
 妙 妙の 名は 謎の こと

左仙

不道

交

千十

花

純

患

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

傳は 一の 初め  
 大 難は 雲井の 妙初  
 難の 名は 謎の こと  
 下 海の 浪 舟は 舟  
 世 量し 淫靡なる 哉  
 妙 妙の 名は 謎の こと  
 大 難の 名は 謎の こと  
 下 海の 浪 舟は 舟  
 世 量し 淫靡なる 哉  
 妙 妙の 名は 謎の こと

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

千如

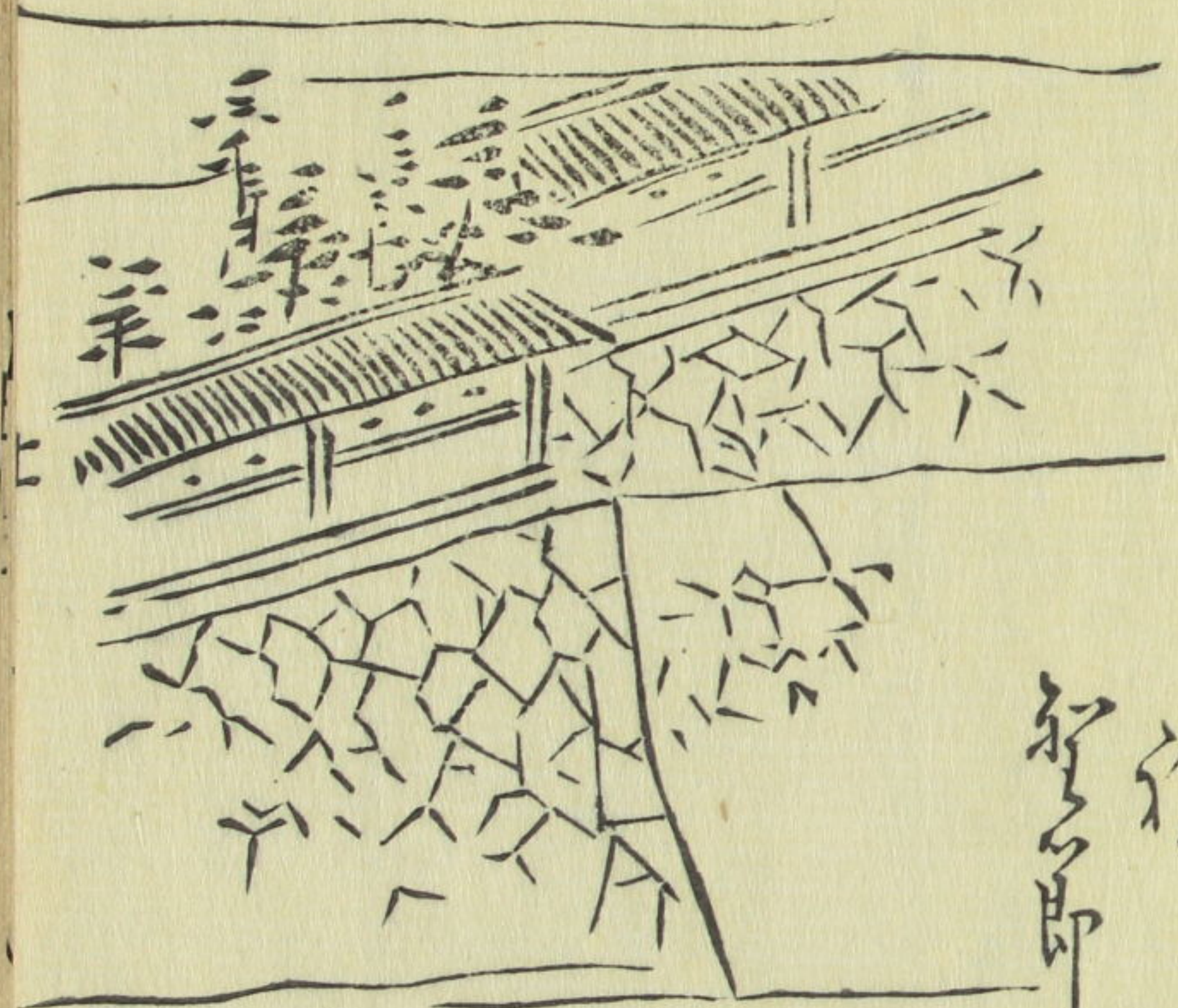
千如

千如

千如

千如

千如



と籙と之とも  
神居の御位を依り  
久しと遠きとを  
後心と

和心即  
の  
心

甲場  
忠角  
藤丸  
春丸  
春丸

七

2

建残丁百人町  
下

坑角

少枝の長年  
とありと

千弱

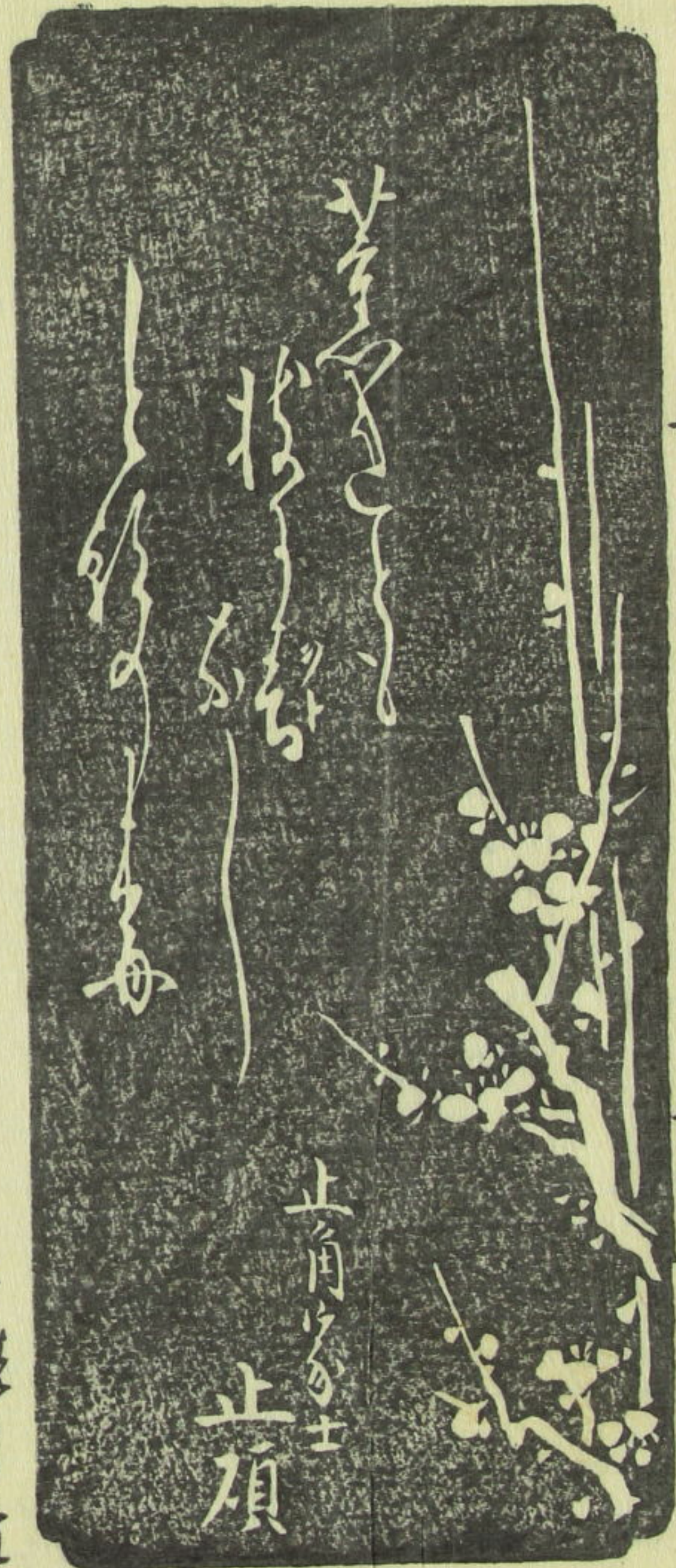
一面青  
刻火天松の者

筆角

作  
新田家  
子  
子  
子

雪





著より上様より月一と相のな  
初より中より長入持千府  
えりよめり人の目ほととこ  
りりり様念上り初より士  
後より心美との口んりり難  
あつたを誰んへも日伴下

全 西跡  
全 素光  
全 集  
全 左角家士  
全 柳  
全 西岸

常宿の常宿と廣く心との空  
えり心美 初より長くも難く  
と心の空美の如くも年下  
陪子都之常宿とく初より  
神一なりけ八月のえり如し

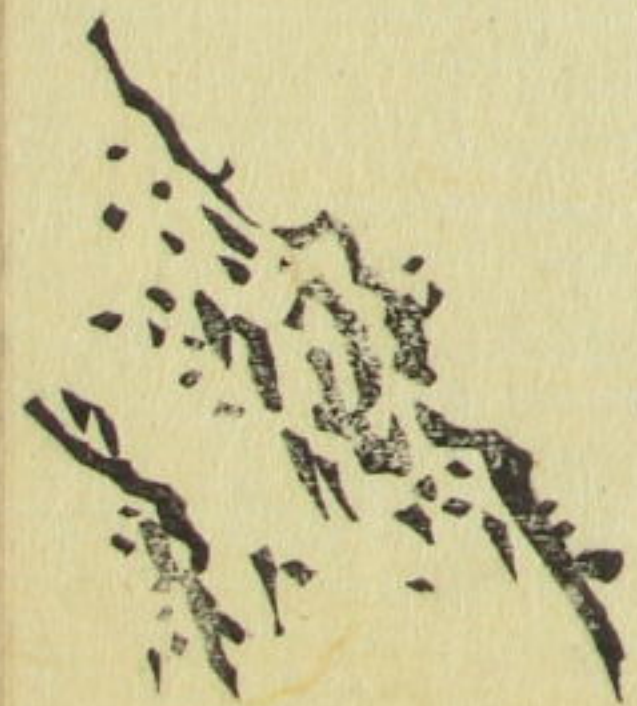
全 松竹  
全 母鶴  
全 左角  
全 白西  
全 左仙

か合加り  
心より心より初より  
くも梅より心より初より  
鳥帽子より心より初より  
唐紙より心より初より  
舟より心より初より  
月より心より初より

全 左列家士  
全 竹柳形  
全 美善輝  
全 佳角  
全 人  
全 龍角







雞の

鳴

ツギマア

今更

万福堂

千壽

千壽

竹

竹

竹

竹友

竹友



かき上馬所石塔と花

庭より南側花の塔と合

碧月堂

花をとりあつて

千石

張り門傍

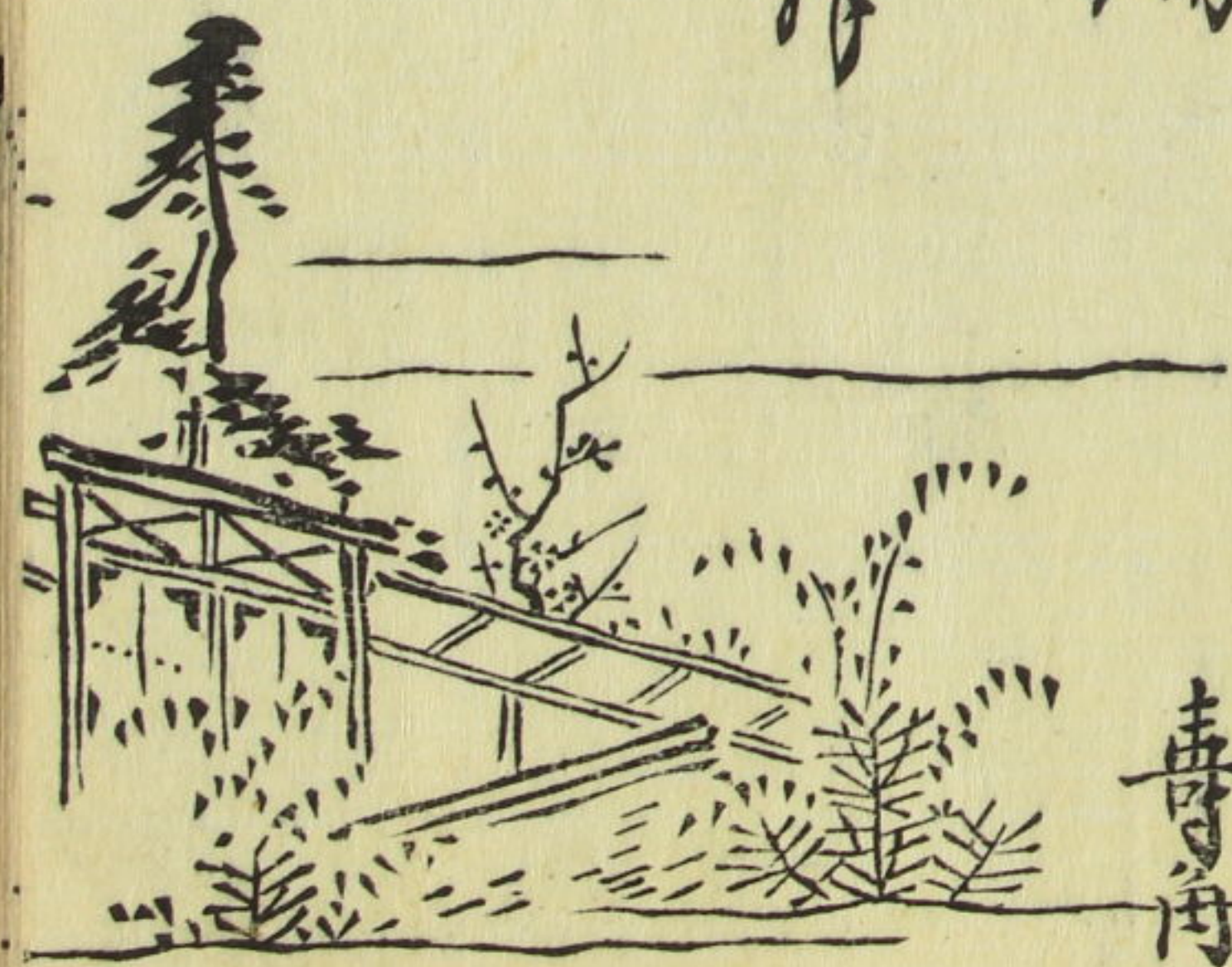
寺角

ごんしん

本茶廊の

ウミギキ  
在り新

本和



珠玉堂主人亭之象也

中

おどろくし積みふりて多言

京角

名実の載初や難きを伴

琺角

ついでに流しぬるも心あふ

丹流

新八拾ふ

他は事とては初より言ふ

龍角

外より外の外の外を一つ

一葉

今もこころに留るを信し初

竹露

心もたしふる初より言ふ

亭泉

心もたしふる初より言ふ

文客

と初より初より言ふ

流木

と初より初より言ふ

布谷

と初より初より言ふ

冬之翁

と初より初より言ふ

簡侶

と初より初より言ふ

亭陽

と初より初より言ふ

葉秀

と初より初より言ふ

亭玉

と初より初より言ふ

管音

と初より初より言ふ

龍溪

中

と初より初より言ふ

清客

中

と初より初より言ふ

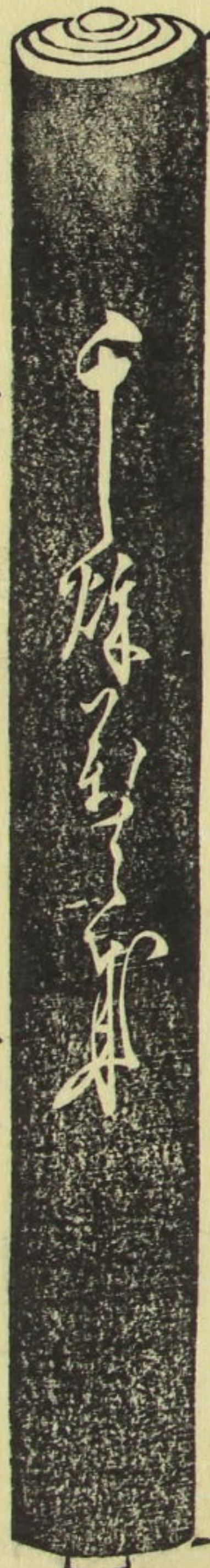
梅勢



唯夕  
 壽巖  
 序角  
 寸夏  
 吏竹  
 芽林  
 宗庸  
 冥士  
 宗古  
 智聖  
 富輝

去んくし年の岩戸の心  
 横し鳥帽子と後人の初月  
 波蓋夜のうらみと初月  
 蘇くく多々のよと初月  
 戸をききし雪の年程と初月  
 雪の言やわし富家の初月  
 海鏡苔とたけつと初月  
 梅のこころの初月  
 梅のこころの初月  
 梅のこころの初月

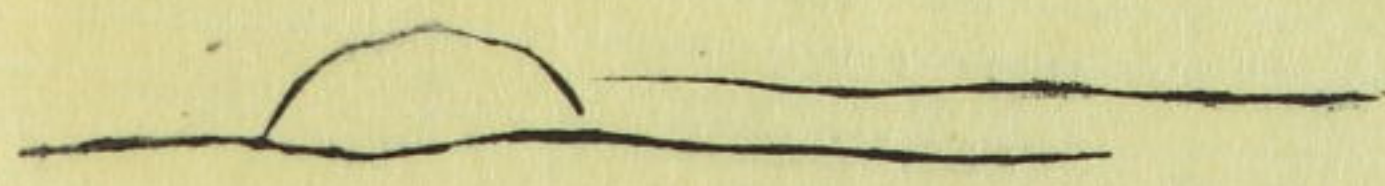
夏涼  
 以制  
 恥妙  
 免群  
 我好  
 芝桐  
 伯木  
 桐圭  
 一木  
 梅寸



梅のこころ

長食位は海山の類かきとて  
 少座とて作らるゝ初は  
 父母の生るゝの初は  
 初は後の徳の白くは  
 初は後の徳の白くは  
 養傷とて西の山  
 少座とて作らるゝ初は  
 少座とて作らるゝ初は  
 少座とて作らるゝ初は  
 少座とて作らるゝ初は  
 少座とて作らるゝ初は

遠堂  
 梅室  
 位角  
 寸角  
 位角  
 位角  
 位角



初は新  
 高角

上田氏  
 高角



竹澤  
 位角  
 寸角  
 位角  
 位角











神農の初物  
洋酒

君は是の如き者なり  
賢くも是れ其知りのく  
和世店  
酸雪



松の照り  
多  
少  
の  
影

高き松の影  
影の長き松  
影の短き松  
影の白き松  
影の黒き松

工部堂  
楊角









徳

ハシ

長



ハシ

ハシ

ヒイ

ハシ



千老

千老

長  
身  
一  
序

坊  
玉  
橋  
南  
仙舟

利根

下

掛  
高  
首

上

林用和

尾角

折角

伍角











一日八

聖人勅

初且

多  
 少  
 物  
 入  
 其  
 為

露  
 潤









たゞしむるをいふに人

後外四半  
谷角を

星雲の如く初め成ると別あり

横角

星雲の如く初め成ると別あり

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

星雲の如く初め成ると別あり

星雲

中  
三十一



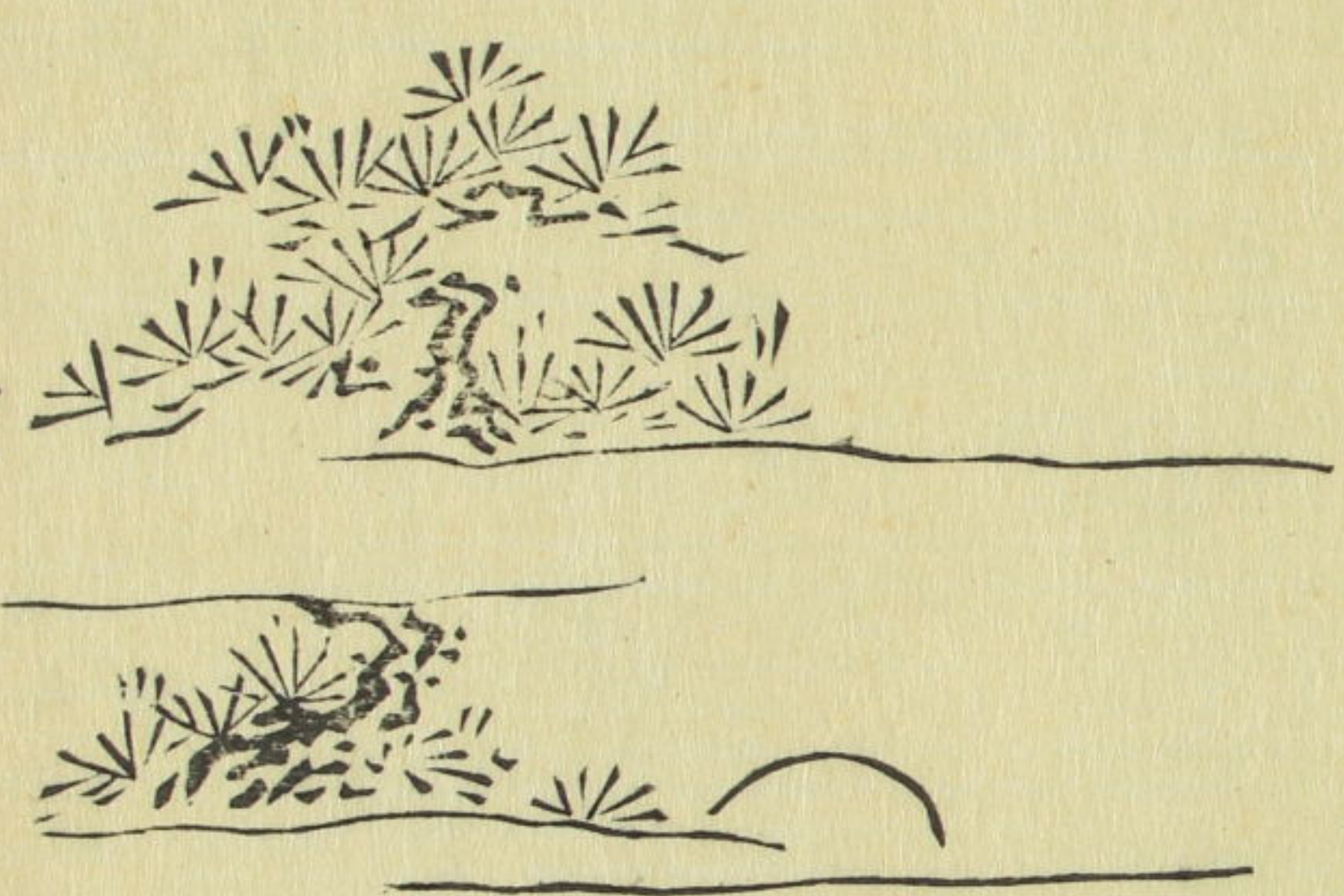






夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて  
 夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて  
 夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて

夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて  
 夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて  
 夕暮のしほりてあけの福とて  
 雲のしほりてあけの福とて

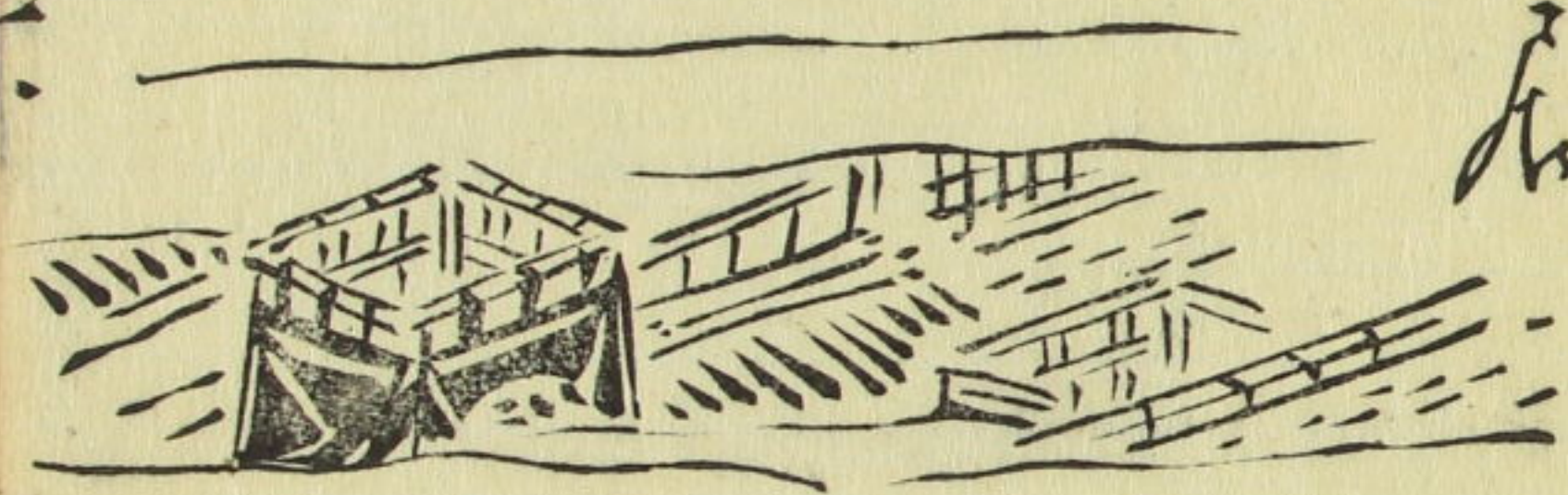


飯防氏  
 母

初夜  
 初夜  
 初夜







初

人

橋  
苦原

修  
即  
張

梅  
ツギヤ  
人  
全

子果  
橋

下



福

船

雨

店

物

雪  
望

全

善

三

水

六

し

春



舟

橋

おまの初冠は流ぐ井は東  
才志未初ふふびおっふふ  
夕夕中ふ秋帳は依ふ氏  
奔ふふの松東くくく下ふふ  
家うゆゆゆゆの初の月う  
そふふふ初ふふふふふ  
ふふふふふふふふふ  
海ふふふふふふふ  
はふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

養加  
長松

上  
一  
電

行秋

呷角

志

巴井

志

柳志

哥竹

柳志

柳志

味國の...  
...  
...

江眼

麻姑の...  
...

...

...

...



赤天

...

...

長沙

...

...

布衣

...

...

福壽

...

...

蟾子

...

...

吉祥

...

...

大正

...

...

本社

白丸

...

...

...

下

遠く低く身をたれり

は連珠のまき草作し跡底

十二針

海初大気の香を文の字をこし

年の風を柳葉草

丁未の秋

古のよき流し涙をくちのよ

の舞をまき草をひしりまのま

ひらひらと初陽の中をのま

らん公草のほろろとまのま

しりしり流し涙をくちのよ

とまき草のまのまをひしりま

心取

毒角草

蘇花

一弁

尾角

遍身

懐角

今妻

かき草

ひり

けり年一玉をまき草

人かき草をまき草

心ゆくまき草をまき草

海初大気をまき草

小春草

雄偉の中をまき草

早陽のまき草をまき草

年々のまき草をまき草

早陽のまき草をまき草

心ゆくまき草をまき草

心ゆくまき草をまき草

梅角

不孝

鳥角

節角

止角

尾角

母角

碎骨

龍泉



ろりやのひさしはふかき  
 一しらの掛さるる  
 少くも作らざる  
 無さるる  
 守りたる  
 のの  
 柱の  
 舟の  
 中へ  
 せいの  
 雄の  
 せいの

副業  
 忠告  
 中  
 信  
 守  
 梅  
 信  
 冠  
 上  
 圃



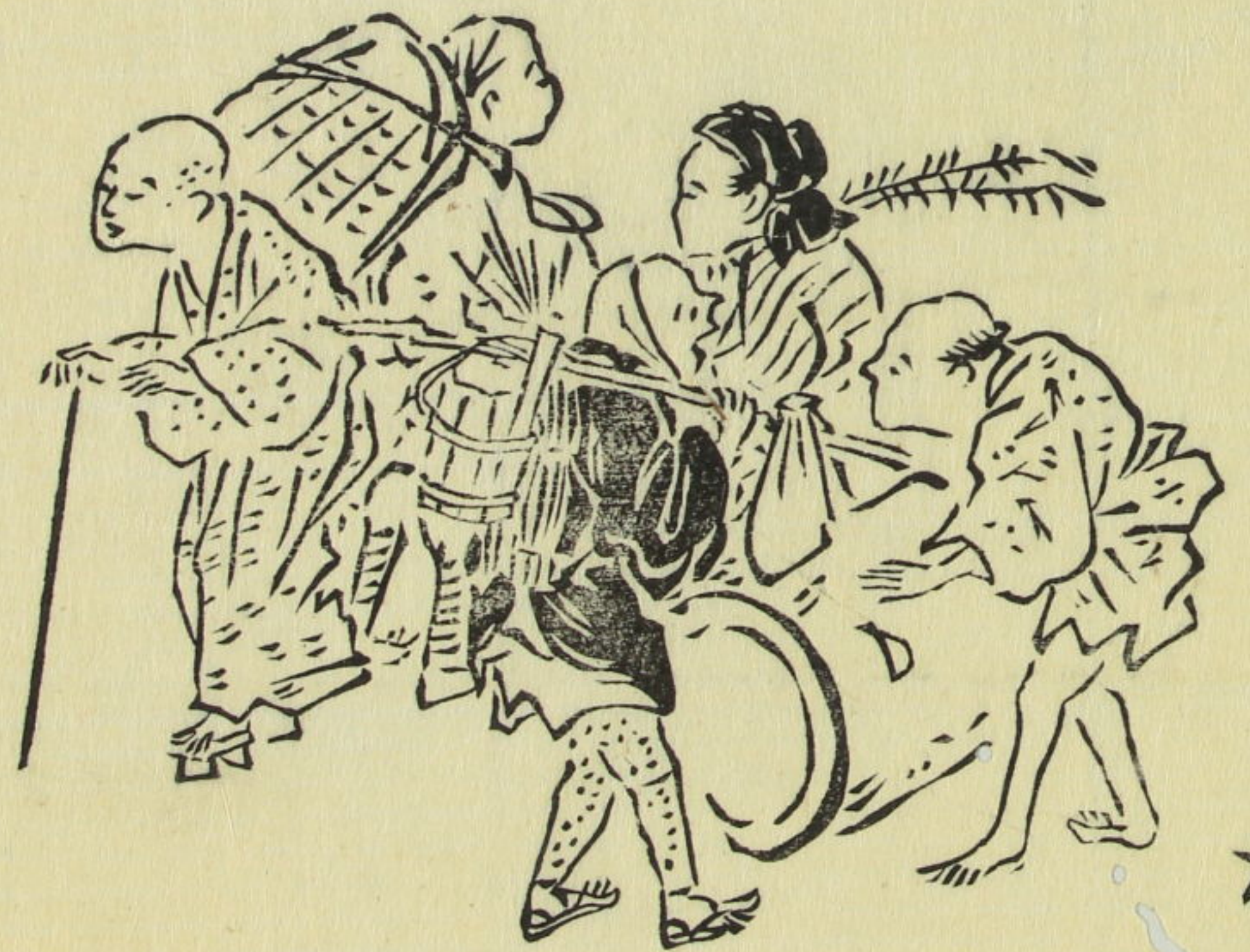
ろりやのひさし  
 一しらの掛さるる

居口  
 七谷川  
 理角

雄の  
 静  
 静  
 静



銭  
人  
少  
心



悟

心

人

少

心



心



子

計

計

計

計

計

計

子



子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

牛便糞白  
冬木無象  
毛...



左平...

...

...

...

...

...

渭角

嵩角

壽角

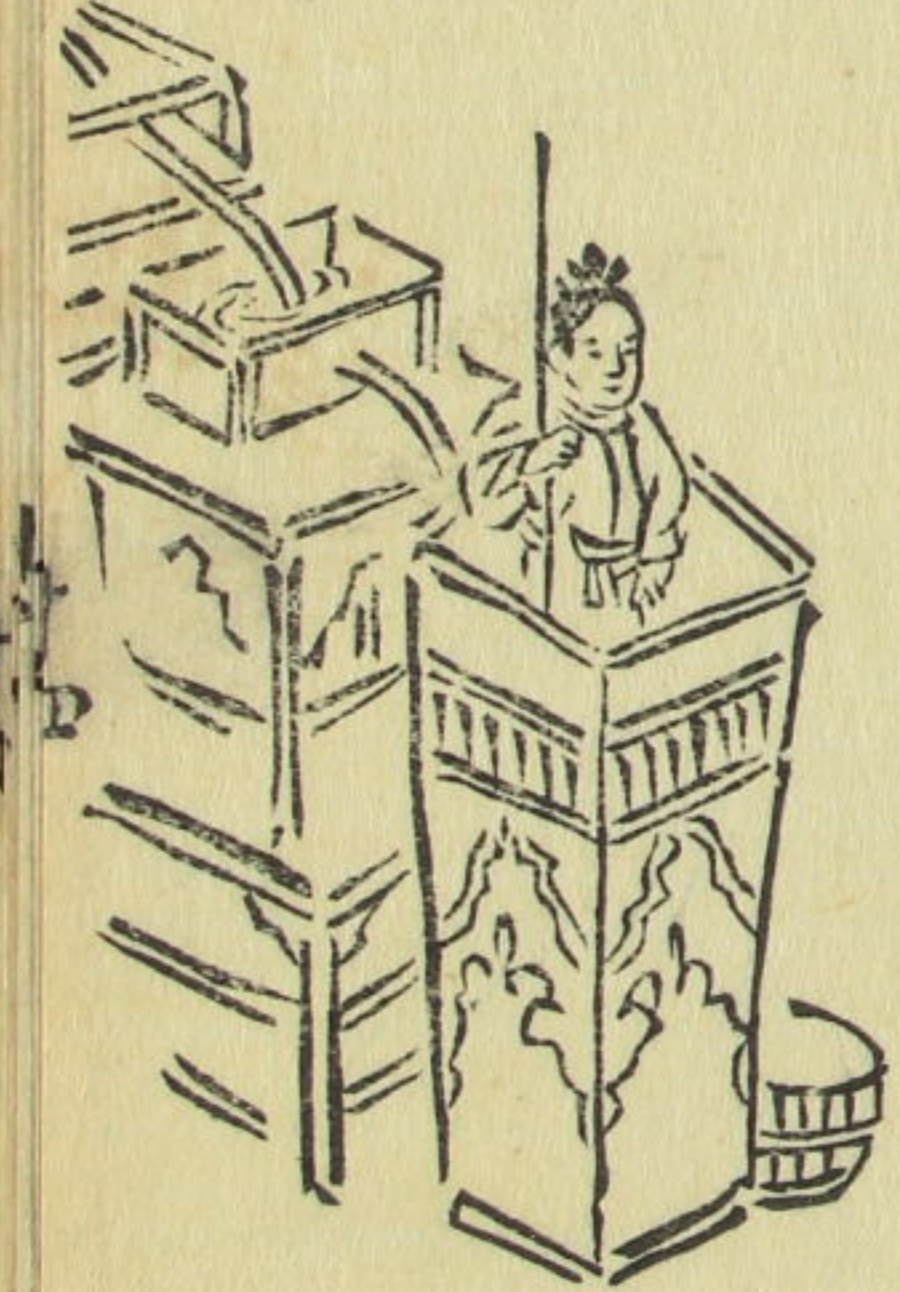


...

漏刻入

...

...



概矢

信長公の御筆... 概... 宛先

初... 梅... 里梅

... 慶... 千雞

... 壽... 宛先

... 千雞

...

初... 説角

...

...

...

... 常角

... 豊長

... 餘江

上列 那由

一 暮下月見地色青く日影の去  
 名を知らずともくくくくくくく  
 初々々々々々々々々々々々々々々  
 河々々々々々々々々々々々々々々  
 字々々々々々々々々々々々々々々々  
 月々々々々々々々々々々々々々々々  
 松々々々々々々々々々々々々々々々  
 下々々々々々々々々々々々々々々々  
 股股々々々々々々々々々々々々々々  
 沖の梅花々々々々々々々々々々  
 々々々々々々々々々々々々々々々々

如件  
 和物  
 遠行  
 篤志  
 猿月  
 賀谷  
 竹葉  
 荻葉  
 五柳  
 苟賀  
 盈身  
 而後  
 鶴例

下 六



一 暮下月見地色青く日影の去  
 名を知らずともくくくくくくく  
 初々々々々々々々々々々々々々々  
 河々々々々々々々々々々々々々々  
 字々々々々々々々々々々々々々々々  
 月々々々々々々々々々々々々々々々  
 松々々々々々々々々々々々々々々々  
 下々々々々々々々々々々々々々々々  
 股股々々々々々々々々々々々々々々  
 沖の梅花々々々々々々々々々々  
 々々々々々々々々々々々々々々々々

如件  
 和物  
 遠行  
 篤志  
 猿月  
 賀谷  
 竹葉  
 荻葉  
 五柳  
 苟賀  
 盈身  
 而後  
 鶴例

下 十五

花のまゝのこゝろに  
 江戸のまゝのこゝろに  
 力に頼るこゝろに  
 少き月をこゝろに  
 女を同するに  
 朽木等と那由と  
 松竹の門をこゝろに  
 以てこゝろに  
 清く静く徳をこゝろに  
 宝舟をこゝろに  
 草花の心をこゝろに  
 ちゆの心をこゝろに

西條  
 蒲角  
 山鹿  
 九月  
 鶴岡  
 法身  
 龍岡  
 治法  
 蓬身  
 彌身  
 西條  
 西條

後文の



竹

一 竹

長

仙

大

下

下

竹葉青  
 石橋  
 古角  
 新葉  
 花夕  
 白梅  
 古角  
 新葉  
 花夕  
 石橋  
 古角  
 新葉  
 花夕

聖代糸  
 竹葉青  
 花夕  
 石橋  
 古角  
 新葉  
 花夕

下馬  
 竹葉青  
 花夕  
 石橋  
 古角  
 新葉  
 花夕





予志致方より徹心より  
 心づらばど女園相如りなり  
 りとありん

和粹堂  
 純角



あまの  
 片雲

たて  
任在  
極  
初

法中

盤  
盤

丁

世

身  
花

下総  
淡子

宇  
盤  
角



孝  
智  
之  
名

中庸の  
子  
大  
是  
也  
了  
父  
者

後  
鞠  
を  
作  
し  
て

い  
ま  
も  
ま  
じ  
に  
か  
る

有  
鞠  
を  
法  
を  
家  
に  
か  
る  
と  
い  
ふ  
也

昭  
和  
毎  
年  
氏

藤  
齋

麻  
布  
柳  
の  
御  
禮

大  
正  
の  
初  
冠  
や  
し  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
鶴  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也

之  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也  
と  
い  
ふ  
も  
柳  
は  
室  
の  
名  
初  
の  
名  
也

下

下



吟みさるゝたつら心 玉本末 壽山  
初行移移り陽し 彦彦末 秀角

いかに解と作りて

あ互ふまゝに 依けり 心んを我 ツルニキ 等寺里

叶フ井は 依りて 心んを我 武公世四各 慶和

まゝの心と 略ス 兵を多し 心んを我 松尾氏 古帘

いかに解と作りて

いかに解と作りて

いかに解と作りて 陽詠 陸徳角

えりて 心んを我 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて 陸徳角 志友

いかに解と作りて

いかに解と作りて

いかに解と作りて

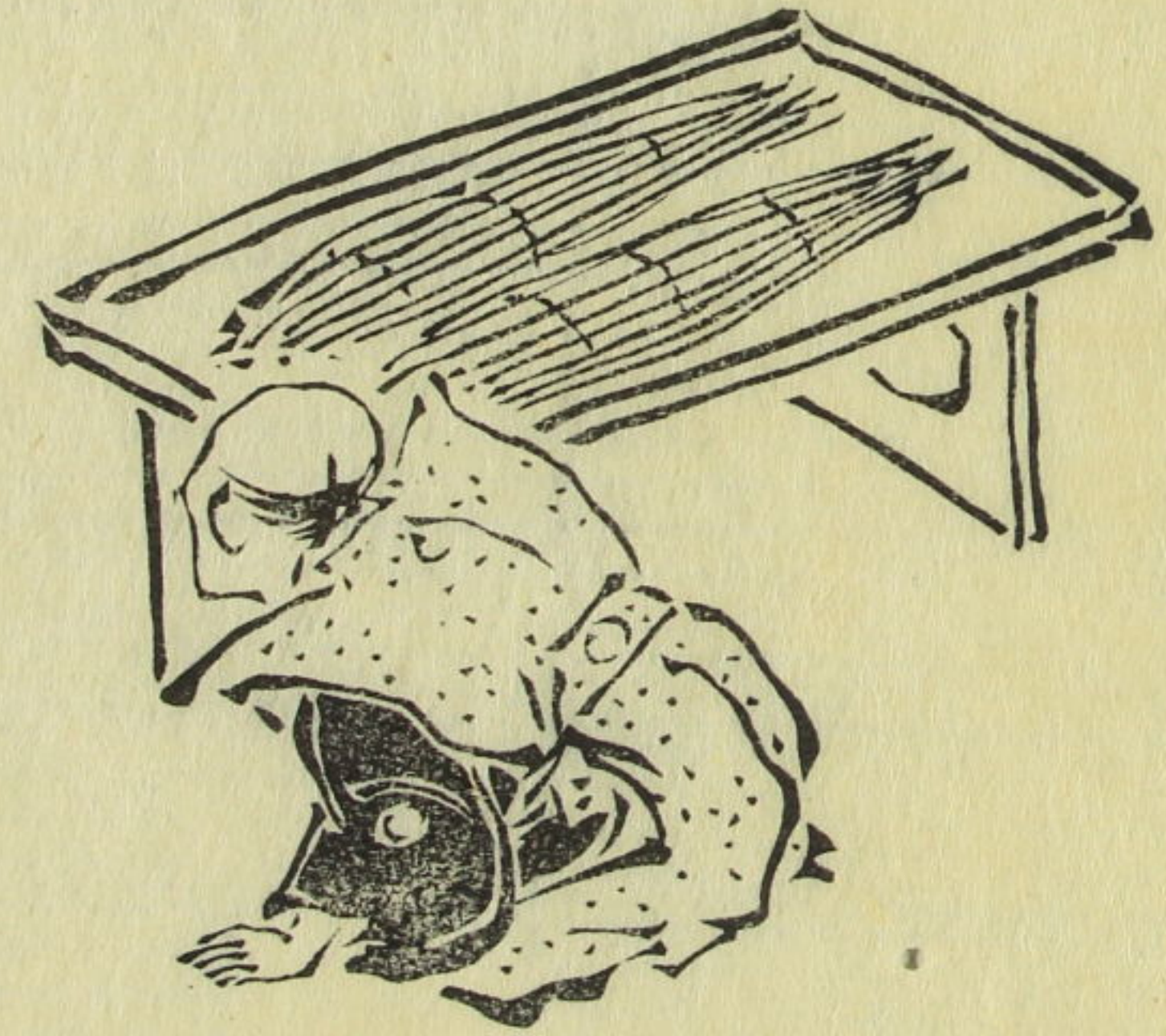
いかに解と作りて

いかに解と作りて

いかに解と作りて

いかに解と作りて

好之書



人  
心  
一  
心  
一  
心  
一  
心

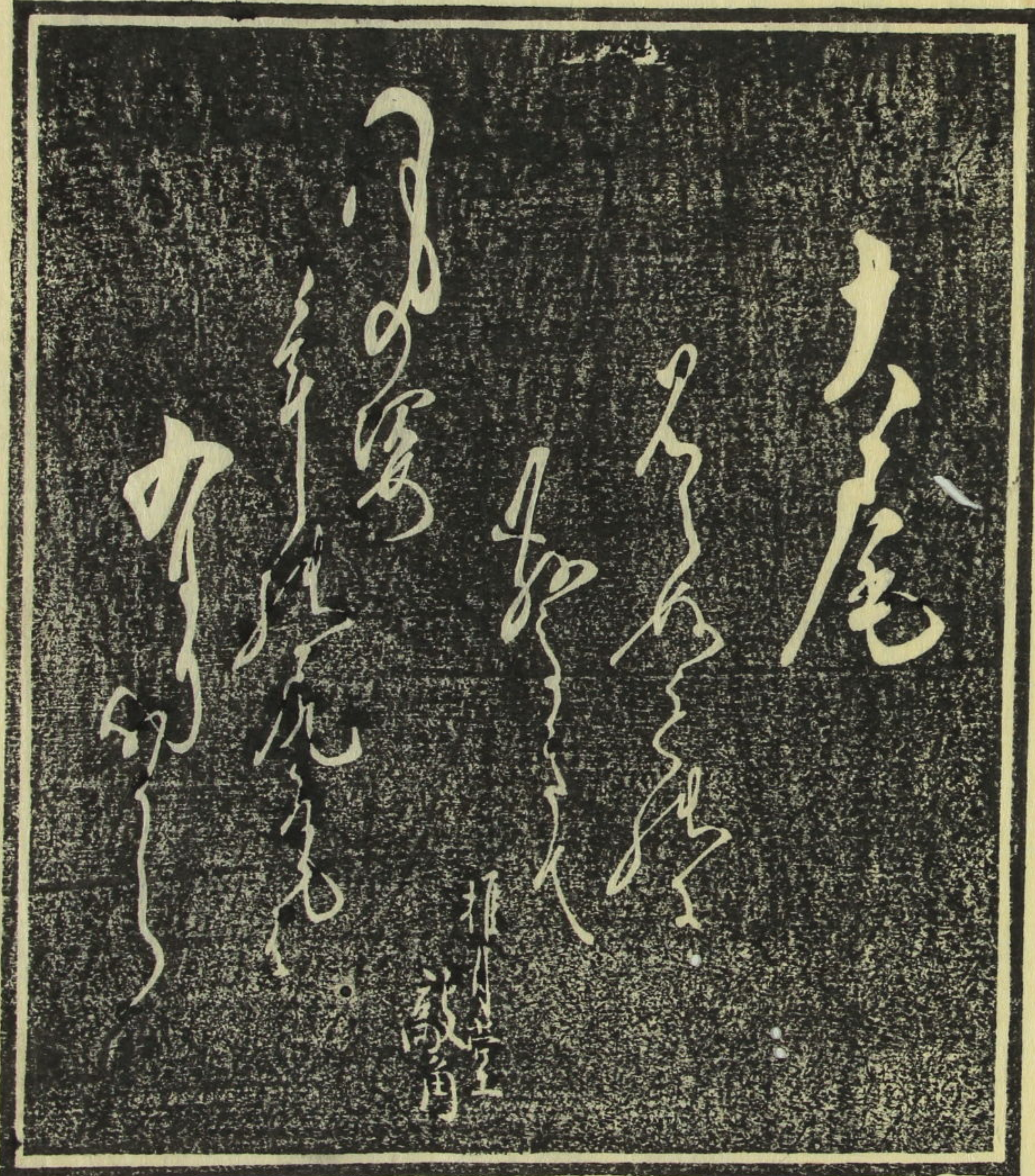
人



體

初  
心  
一  
心  
一  
心

堂  
千  
李



二十三

此一人之... 〇

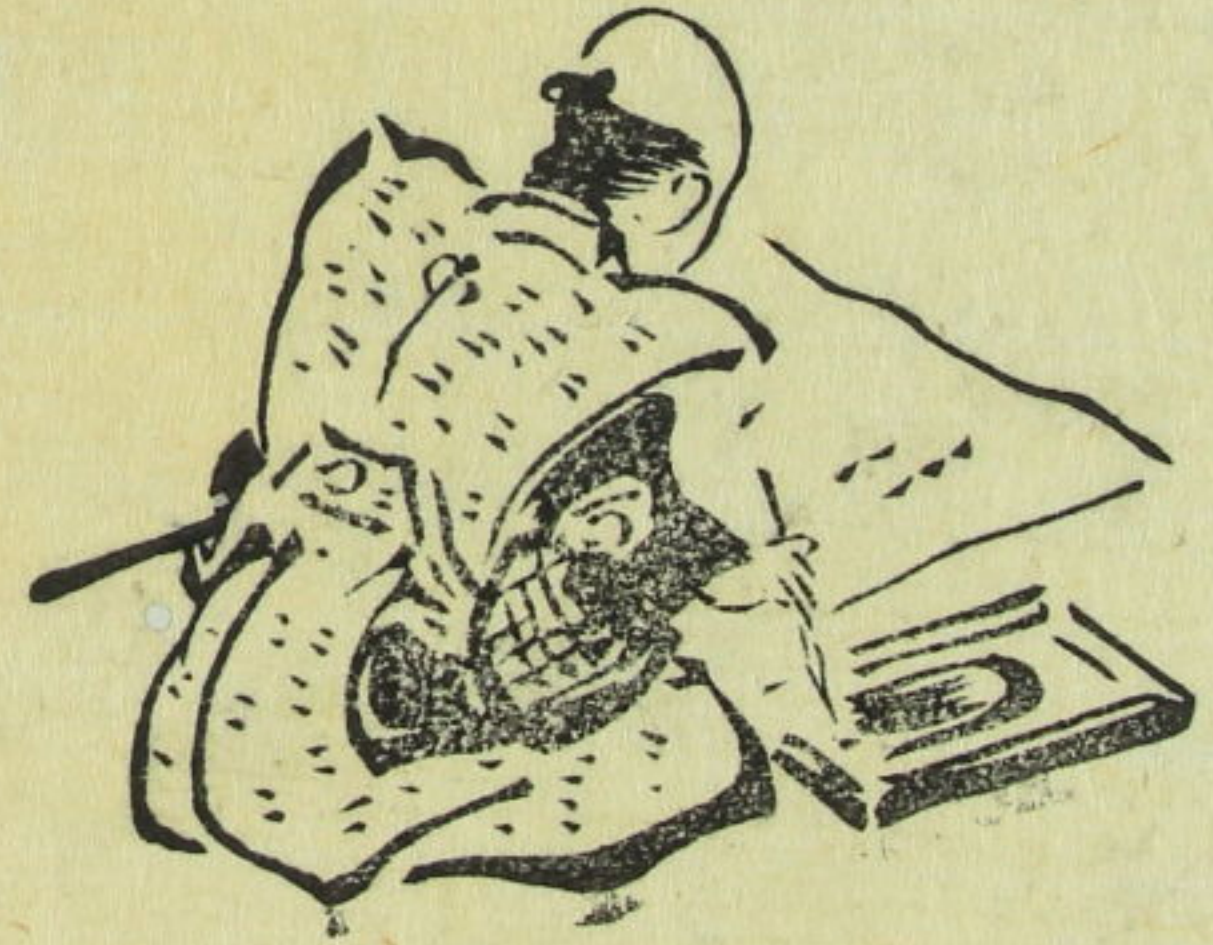
...

...

...

...

...



...



年中引附之覽

初年初月

上巳三月

端午五月

花樣中月

天衣初月

端午五月

約凍中月

夕初月

盆五月

正月中月

業初月

雙中月

雪中月

室初月

清中月

春通司道徳不爲多し毎月の分  
 初年引附之覽  
 集安の心より  
 清書の成

出西寺ノ方

一 有司武鑑

日以

一 大成武鑑

須原屋

一 萬代寶鑑

